

水稻育苗箱**播種時処理**殺虫殺菌剤

# アプライ<sup>®</sup> パディート<sup>®</sup> 粒剤

powered by  
**CYAZYPYR<sup>®</sup>**  
ACTIVE INGREDIENT



いもちに  
負けない稲になる

高密度播種  
対応

水稻主要害虫を  
同時に防除

イナゴ類防除に



葉いもち



白葉枯病



もみ枯細菌病



イネミスゾウムシ



イネドロオウムシ



ニカメイチュウ



イナゴ類



フタオビコヤガ

アプライ<sup>®</sup>がいもち病、白葉枯病、もみ枯細菌病に  
パディート<sup>®</sup>が既存剤抵抗性イネドロオウムシに効く!

# アプライ® パディート® 粒剤

## 水稻育苗箱播種時処理 殺虫殺菌剤

有効成分 シアントラニプロール…0.75% 殺虫剤分類 28  
チアジニル…12.0% 殺菌剤分類 P3

安全性 普通物（毒劇物に該当しないものを指している通称）

### 特長

- 1 抵抗性誘導殺菌剤アプライと殺虫剤パディートの混合剤です。
- 2 播種時処理によりいもち病、白葉枯病、もみ枯細菌病、および水稻主要害虫を同時防除できます。
- 3 アプライには稲をいもち病、細菌病にかかり難くする作用があり、既存剤耐性菌にも有効です。
- 4 パディートは浸透移行性に優れ、高い防除効果と優れた効果持続性を有します。また、既存剤抵抗性イネドロオウムシにも有効です。
- 5 各種施薬装置に適合しています。

### 適用病害虫および使用方法

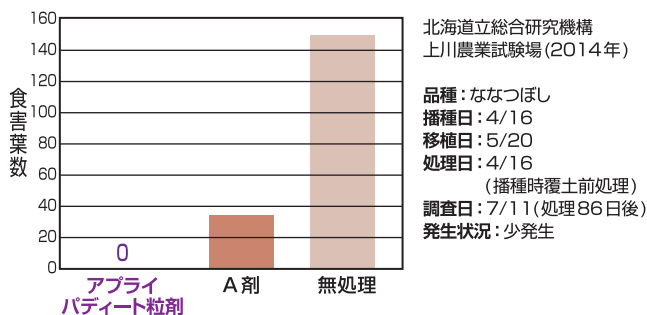
〈2022年7月現在の登録内容〉

| 作物名    | 適用病害虫名  | 使用量   | 使用時期       | 本剤の使用回数 | 使用方法                                  | シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数 | チアジニルを含む農薬の総使用回数                                |
|--------|---|---|------------|---------|---------------------------------------|-----------------------|---|
| 稲（箱育苗） | いもち病<br>イネミズズウムシ<br>イネドロオウムシ  | 育苗箱<br>（30×60×3cm、<br>使用土壌約5ℓ）<br>1箱当り50g                               | は種前        | 1回      | 本剤の所定量を<br>育苗箱の床土<br>又は覆土に<br>均一に混和する | 1回                    | 3回以内<br>（移植時までの<br>処理は1回以内、<br>本田での散布は<br>2回以内） |
|        | いもち病<br>白葉枯病<br>もみ枯細菌病<br>イネミズズウムシ<br>イネドロオウムシ<br>ニカメイチュウ<br>ツマグロヨコバイ<br>フタオビコヤガ<br>イネヒメハモグリバエ<br>イナゴ類<br>コブノメイガ<br>イネツトムシ<br>ヒメトビウンカ | 高密度には種する<br>場合は1kg/10a<br>育苗箱<br>（30×60×3cm、<br>使用土壌約5ℓ）<br>1箱当り50～100g | は種時<br>覆土前 |         | 本剤の所定量を<br>育苗箱の上から<br>均一に散布する         |                       |   |
|        | 育苗箱<br>（30×60×3cm、<br>使用土壌約5ℓ）<br>1箱当り50g   |   |            |         |                                       |                       |   |

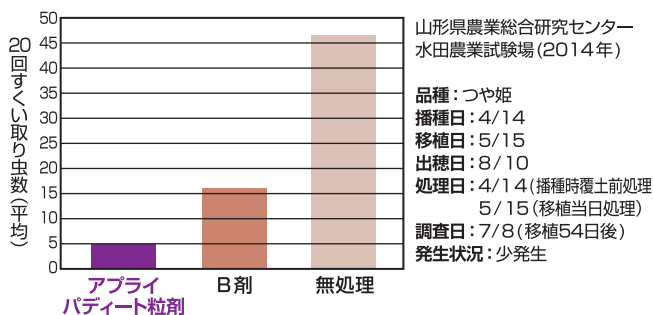
### 試験成績

2022年7月適用拡大

#### ■イネドロオウムシに対する防除効果



#### ■イナゴ類に対する防除効果



### 正しく安全にお使いいただくために

- 所定量を秤量し、均一に処理してください。
- 床土または覆土に混和処理する場合、処理後速やかに使用してください。また本剤を処理した床土または覆土を放置しないでください。
- 極端な低温または高温条件下での育苗では生育抑制を生じるおそれがあるので、適切な温度管理に心がけてください。
- 本剤の処理により、水分の極端に多い特殊な育苗条件（プール育苗等）や培土種によっては軽微な薬害が認められることがありますが、その後回復するので通常の管理を維持してください。
- 本剤の処理により育苗期間中に黄化症状が認められることがありますが、移植後回復するので通常の管理を行ってください。
- 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5ℓ）1箱当りに乾粕として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整してください。
- 本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じるおそれがありますので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出しないよう注意してください。
- 近く等の他作物に影響を及ぼす場合がありますので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように散布してください。
- 眼に対して刺激性がありますので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の指導を受けてください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。

● 使用前にはラベルをよく読んでください。 ● ラベルの記載以外には使用しないでください。 ● 本剤は小児の手の届く所に置かないでください。

LINE公式アカウントはじめました！  
友だち募集中 最新情報をLINEで配信！  
@nichino

**NICHINO** 東京都中央区  
京橋1丁目  
日本農薬株式会社 19番8号  
TEL:0570-09-1177 URL:https://www.nichino.co.jp/  
2024年9月作成版 (SPA) DN12409S